

競技注意事項

◎ 新型コロナウイルス感染防止対策について

- ① 参加者は、「JAAF 陸上競技活動再開のガイダンス（第3版 2020.9.30）」について熟読すること。
- ② 大会2週間前から体調管理チェック表を記入し、大会当日、各大学の代表者が開場時刻前までに集計、確認をしたのちに提出様式PDFを印刷し、代表者名と代表者印を押したものを大会当日受付に提出する。
※以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること。
 - ・体調がよくない場合（発熱、咳、咽頭痛など）
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ③ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合は参加を認めない。
- ④ 当日、37.5度以上の熱のある者の参加を認めない。
- ⑤ 3密回避行動を心掛ける。トラック種目は、フィニッシュ後、速やかに周囲の競技者との距離をとる。フィールド競技者は、待機場でのソーシャルディスタンスに気をつけること。
- ⑥ 滑り止め（炭酸マグネシウム）は、各自準備する。
- ⑦ 手洗い・手指消毒を徹底する。消毒液は各自で準備することが望ましい。
- ⑧ 運動中につばや痰を吐くことは極力行わない。
- ⑨ 運動時を除きマスクの着用を義務とする（移動中、待機中もマスクを着用する）。競技場内通路や、トイレ階段では、右側通行を励行し、他人との接触を避ける。また、スタンドでは、左右の座席を2席以上、前後は1列以上空けて座ること。
- ⑩ チーム関係者以外（家族／一般）の観戦は認めない。
- ⑪ 取得する個人情報について適正に取り扱う。大会会場にて感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要範囲で保健所等に提供することがある。大会に参加する選手はこれに同意の上、参加すること。

1、競技規則について

本大会は、2020年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2、ウォーミングアップについて

- (1) 練習は補助競技場、投擲場を各自使用すること。練習場は混み合う可能性があるため、練習の際は怪我・事故等のない様に細心の注意を払うこと。主催者は一切責任を負わない。
- (2) 投てき練習、跳躍練習は競技開始前に各ピットで競技役員の指示により行う。

3、招集について

- (1) 招集所での招集は行わず、WEB招集（Googleフォーム上にて必要事項を記入して行う）とする。
- (2) 各種目のWEB上の招集完了時刻は、トラック種目は競技開始30分前、組毎に行うので注意。フィールド種目は競技開始1時間前とする。
- (3) 2種目以上を同時刻に兼ねて出場する場合には、それぞれ個別の種目のフォームの記入をしたうえで、Googleフォーム『他種目同時出場届』に記入すること。
- (4) 招集完了時刻に遅れた者（Googleフォーム記入遅れ）は、失格として処理する（当該種目のみ）ので十分注意すること。登録完了の返信メールが届いた時点で、招集完了とする。
- (5) リレー競技は、オーダーの変更の有無にかかわらず、その都度オーダーを招集完了時刻1時間前までに Googleフォームに記入、提出すること（リレーの編成メンバーについては170条10参照）。

- (6)トラック種目は競技開始10分前までにスタート位置付近に、フィールド種目は30分前までに指定のゲート前に集合する。

4、棄権について

- (1) 競技者の棄権は、原則として代表者会議で受け付けた者のみとする。
- (2) 当日やむなく欠場する場合には、招集完了時刻前までに不出場届をGoogleフォーム上にて必要事項を記入して行う。インターネット環境を持たないものに限っては第三ゲート付近の競技者係に申告する。その届け出た種目に限り、欠場を認める。
- (3) 不出場届を提出せず棄権した場合は、リレーを含め以後の競技への参加を認めない。
- (4) リレー競技の棄権については、招集完了時刻1時間前までに不出場届を上記同様の方法で提出すること。リレーについて不出場届未提出の場合は、棄権として処理するが、競技会運営を円滑に進めるため、誠意ある対応をお願いする。

5、アスリートビブスについて

- (1) 選手ナンバーは主催者が全て決定し、アスリートビブスは、東北学連登録選手を除き、主催者側が用意したものを使用する。ただし、5000m、10000m、3000mSC、10000mWについては、主催者側で用意したオーダー番号のものを使用する（当日、スタート地点に準備）。
跳躍種目については、胸、背の一方だけでよい。
- (2) トラック競技に出場する競技者は、スタート待機所にて配布する腰ナンバーカードをパンツの右横やや後方に取り付けること。

6、番組編成及び、走路・競技順について

- (1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の順による。
- (2) トラック競技の準決勝・決勝の組み合わせ及びレーン順は、主催者が公平に番組編成を行い、その結果を招集所付近に掲示する。

7、フィールド競技について

- (1) フィールド競技における持ち時間は各種目1分とする（第180条17参照）。
- (2) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、下記の通りとする。

種目		練習A	練習B	1	2	3	4	5
走高跳	男	1m70	1m90	1m75	1m80	1m85	1m90	1m95
	女	1m35	1m50	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60
棒高跳	男	3m50	4m30	3m60	3m80	4m00	4m20	4m40
	女	2m20	2m70	2m30	2m40	2m50	2m60	2m70

※走高跳は、男子は2m00、女子は1m65から以後最後の一人になるまで3cmきざみとする。

※棒高跳は、男子は4m40、女子は3m00から以後最後の一人になるまで10cmきざみとする。

※優勝が決まった後にバーを上げる場合は、競技者は当該審判員あるいは審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。

- (3) 走高跳及び棒高跳の第1位決定試技の際のバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。
- (4) 三段跳において、踏切板から砂場の近い方の端までの距離を男子は12m、女子は9mとり、競技を行う。ただし、競技者レベルに合わせて審判長が判断し、男女ともに砂場までの距離を変更する場合がある。

8、混成競技について

- (1) 招集は1日目、2日目の最初の種目は、競技開始時刻の30分前（7種競技2日目は60分前）にWEB招集を完了すること。
- (2) 各日程2種目以降の招集は、トラック種目は各スタート位置にて10分前に、フィールド種目は各試技場において20分前に完了する（ただし、棒高跳は30分前に完了する）。以後は、競技役員の指示に従うこと。
- (3) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、下記の通りとする。

種目	練習	1	2	3	4	5	6	7		
走高跳	男	1m50	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	以後3cmきざみ
	女	1m20	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	以後3cmきざみ
棒高跳		2m70	2m70	2m80	2m90	3m00	3m10	3m20	3m30	以後10cmきざみ

9、競技用器具について

- (1) 競技用器具は、競技場備え付けのものを使用し、個人の器具を持ち込んではいけません。ただし、投てき物及び棒高跳用ポールに限り、個人所有のものを使用することができます。個人所有の投てき物については競技開始1時間前に招集所にて検査を受け、許可されたものでなければ使用できません。
- (2) 競技場は全天候舗装であるので、スパイクのピンは9mm以下のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投では12mm以下のものを使用すること。
- (3) シューズの厚さに関してはWAの制限を超えないこと。
今大会では**TR5を適用しない**ので800m以上の種目は**全員**厚さが25mm以下のソールのシューズを着用すること。Googleフォームに回答欄を作ることに対応し、対面での計測はないので規則をも守ること。

種目	靴底の最大の厚さ (TR5.5、〔注意〕 (i), (ii), (iii)、 図、TR 5.13.3)	要件・備考
トラック種目(ハードル種目を含み、800m未満の種目)	20mm	リレーの場合、各走者が走る区間の距離に応じて適用する。
トラック種目(障害物競走を含み、800m以上の種目)	25mm	リレーの場合、各走者が走る区間の距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路で行う競歩競技と同じとする。

10、抗議について（競技規定第146条参照）

競技進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、その競技者、または代理人より結果が正式発表（アナウンス）されてから30分以内（次のラウンドがある場合は15分以内）に、担当総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。審判長の裁定に不服の場合は、上訴申立書と預託金1万円を添えてジュリー（上訴審判員）に上告することができる。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。

11、表彰及び対校得点について

- (1) 各種目優勝者には優勝メダルを、8位までの入賞者には賞状を授与する。3密回避のため表彰式は行わない。各日競技終了後に大学毎にまとめて授与する。
- (2) 成績の優れた男女各1名を最優秀選手として選出する。最優秀選手賞は、今大会中における成績を参考として、大会会長・大会委員長・大会副委員長の3者により決定する。
- (3) 対校得点は、1位8点、2位7点、以下6、5、4、3、2、1点とする。
- (4) 総合得点が同得点の場合、上位入賞種目の多い方を上位とする（1位種目の多い学校、1位種目数が同数であれば、2位入賞種目数の多い方を上位とする。以下、同様）。これで決定しない場合は4×400mRの順位で決定する。

12、その他

- (1) 待機場所の割り振りを行った大学に関しては、指定した場所にテントやブルーシートを広げることを許可する。ただし、待機する際には、ソーシャルディスタンスの確保に努め、「密」にならないよう注意すること。

その他の大学については、各所属の共用荷物の保管場所は、必要最小限に留め、個人的に場所を確保すること。

雨天走路、更衣室を待機場所としての使用は禁止とする。また、その他、待機場所を制限することがあるので係の指示に従うこと。

- (2) 競技者の付き添いは一切認めない。従って競技者以外は、トラックならびフィールド内に立ち入ることはできない。
- (3) 大会期間中、競技者は本部前の通行を禁止する。
- (4) ユニフォームは各大学一種類（同一デザイン）のものに統一して、着用すること。ただし、同色のハーフタイツ等の着用は認める。また、統一できないもので、代表会議で承認を得たものは、着用を認める。
- (5) 開・閉会式は、各大学の旗手1名の参加とアナウンスのみで行う。
- (6) 大会1日目、2日目終了後、シートやテントを競技場コンコースに置いていくことは認めるが、スタンドに置いていくことは認めない。また、紛失、破損について主催者は責任を一切負わない（各学校で風雨対策を行うこと）。
- (7) ゴミは各自持ち帰ること。
- (8) 前日練習は10月16（木） 14：00～17：00にサブトラックを解放する。
- (9) 開門・閉門時間は以下の通りとする。

	(開門時間)	(閉門時間)
第1日目……………10月17日（土）	7：30	17：30
第2日目……………10月18日（日）	7：30	17：30
第3日目……………10月19日（月）	7：30	16：30

※進行状況により前後する可能性がある

- (10) 集団応援は禁止とする。バック及びサイドスタンドは、フィールド種目のコーチングにおいてのみ開放する。
- (11) 主催者は競技中の発病・負傷に対しては応急処置以外の責任を負わない。ただし、2020年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- (12) 競技場及び周辺施設の器具などを破損した場合は、その大学から弁償代を徴収する。